

**第4期 (2006年度) S S C S (Small Schools for Civil Society)  
インターンシップ奨励プログラム  
活動カリキュラム (2006年6月～2007年6月)**

**■ 団 体 概 要**

記入日2006年2月

<b>団体名</b>	<b>特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター</b>
<b>代表者・連絡担当者</b>	代表者 中村 陽一 連絡担当者 中村 陽一、越河 (こすごう) 澄子
<b>団体住所等</b>	〒330-0064 埼玉県さいたま市浦和区岸町4-25-15小松ビル301 電話 : :048-835-4311 FAX : 048-835-4312 E-mail : office@sa-npo.org URL : http://www.sa-npo.org 連絡のつく曜日・時間帯 : 10:00-18:00
<b>設立時期</b>	1999年10月設立

**団体の活動目的と活動内容**

新しい地域社会の仕組みの開発・提案および市民による社会貢献・社会変革に関する活動の支援を行うことを通して、市民自らが社会的課題を解決し、新しい価値を創造する市民社会の実現をめざしています。

「埼玉NPO連絡会」を母体として、1999年、県内初の「中間支援」組織として設立。以来、県内1000人を超える市民とともに市民主体のまちづくりを進めることをめざした「さいたま介護保険サポーターズクラブ」、400人の市民とともに進めた介護保険利用者実態調査と地域福祉計画市民研究会の運営、県内950の市民活動グループを紹介した「埼玉NPOつながりリスト」発行、NPOに関する各種講座・フォーラム・研究会（市民的調査研究術講座、埼玉NPOフォーラム）の開催、NPO運営や法人化に関する相談活動などを通じて、市民活動の支援と促進のための社会的基盤整備の活動を進めています。

**■活 動 カ リ キ ュ ラ ム**

<b>活動名</b>	<b>ネットワーキングを形にするものとしてのNPO体験</b>
主な活動場所	上記事務所および埼玉県内の市民活動団体事務所
最寄駅と駅からの距離	J R浦和駅から徒歩7分
スケジュール	<活 動 な ど> (カリキュラムは、状況や事情により変更になる場合があります)
2006年6月17・18日 <<前期>> 6月～8月	<b>入校式・事前研修会 (4期) インターン開始</b> ガイダンス①さいたまNPOセンターとその活動、②NPO前史—市民とネットワーキング、③ネットワーキングを形にするものとしてのNPOとは？④埼玉のNPO・市民活動を知る、⑤市民活動の「現場心得」
9月～11月	・「NPOフォーラムぜ～んぶ埼玉」の実行委員の一員として「NPOフォーラム埼玉実行委員会」に参加 ・「さいたまNPOニュース」編集委員会の一員として編集会議に参加 ※この時期、(a)会議議事録をとる、(b)資料管理をする、(c)会議と会議の間の時期に必要な実務を進める、などのOJT研修をしていただきます。
2006年11月頃 <<後期>> 12月～2007年3月	<b>中間研修会</b> ・「NPOフォーラムぜ～んぶ埼玉」開催に関わる実務と当日の運営実務 ※これに関わるOJT実務は、「NPOフォーラムぜ～んぶ埼玉」の開催通知を行う、開催場所の決定、リーフレットの発行補助、講師依頼の補助、当日運営の担当、センターニュースレターへの報告執筆などです。 ・「さいたまNPOニュース」の編集・発行に関わる実務
2007年3月～6月	上記OJTに加え、この企画によってもたらされる成果は何か？その社会的意味とは？どのような新しい価値の創造につながりうるのか？等等について、両プロジェクトの関係者（県内市民活動団体・NPO関係者、センター理事・スタッフ）と意見交換、討議の上で考え、ショートレポートにまとめていただきます。
6月	・「NPOフォーラムぜ～んぶ埼玉」、「さいたまNPOニュース」両事業のまとめに関わる実務

【団体名:さいたまNPOセンター】

※これと関わるOJT実務として、企画し運営する仕事のまとめ方（評価、今後の課題整理）を学習し、両事業に対する感想と提言をまとめていただきます。  
ふりかえり:①インターンを通して学んだこと、②自分としての課題、③さいたまNPOセンターへの提言、をスーパーバイザー、メンターをはじめ、センター理事・スタッフとの対話を通じてまとめていただきます。

2007年6月 修了報告会(4期)／入校式(5期)

総合的な受け入れ指導者名（スーパーバイザー）：中村 陽一

日常的な受け入れ担当者名（メンター）：越河（こすごう）澄子、小谷野（こやの）知美

## ■ インターンに期待すること

特別な専門性や技能などは必要ありません。予断や先入観をもたずに、多様な市民活動・NPO関係者とのふれあいの中で、自らの歴史的・社会的な制約としての「殻」を打ち破っていくような明るいたくましさ、他者への関心と配慮をもてる方を期待し、歓迎します。きっとあなたが今まで出会ったことのないタイプの面白い「大人」（やときには同世代人）と遭遇し、共生のアート（芸芸）としてのネットワークキングを机上ではなく体験的に学ぶことができるでしょう。

## ■ 活動日・活動時間についての希望

基本的には週2日程度活動していただきたいと思います（ただし、在学などの休業期間については相談によって）。活動時間の上限として週10時間（月40時間）までを目安としたいと思います。

## ■ 団体の活動を理解するために役立つと思われる資料や情報

当NPOセンター発行の書籍・報告書（当センターで閲覧可。日本NPOセンター資料室に一部あり）  
中村陽一・日本NPOセンター編『日本のNPO/2000』、『日本のNPO/2001』日本評論社  
当センターWEBサイト

## ■ その他

若い世代のみなさんは、どのようにして市民の活動に関心をお持ちになったのでしょうか？もしかすると、NPOから入って、関心を持ったかもしれませんね。もちろん、それでいいのですが、今日のNPOに至る長い長い市民の動きの歴史や背景があり、いまま、一括りにはできない多彩な活動が、多様な課題や問題をきっかけに、特に地域では繰り広げられているということ、さまざまな「現場」や人と接するなかから、ぜひ、体験的に知っていただきたいと思います。

と同時に、それらの具体的な活動やそこで動く個々の人たちが、何を願って、何のために動いているのか、（簡単にわかったつもりにならず）対話や観察のなかでしっかりと目を凝らしていただきたいとも思います。

そのうえで、今回、テーマにもなっているネットワークキングということの現代的な意味と一緒に考えてみましょう。それは、いま、さいたまNPOセンターが地域で活動を進めるうえで真剣に考えていきたい大切なテーマの一つでもあります。

それらとともに、NPOとはいまの社会にとって、地域にとって、日本および日本人にとって何なのか、その位置や果たすべき役割について、ローカルなところからグローバルな視野に至るまで射程に収めることを意識しつつ、意見交換し、ともに考えていくことで、さいたまNPOセンターも学んでいくつもりです。

スケジュール案にも書いたとおり、日常的には、実務をOJTによってしっかり身につけていただくことも今回の眼目です。実務のプロセスを通じて、あなたの若い感覚によって、思いもかけぬアイデアや提案が出てくることも期待しています。

## ■ 先輩からのメッセージ

押部俊哉 第3期インターン 日本社会事業大学4年生  
さいたまNPOセンターの1番の強みは、埼玉県内を中心とした様々なNPO関係者との出会いだと思います。その出会いを通して、市民活動に取り組む人の多様な想いを知り、また、そのような多様な人達を支援する中間支援組織の役割を学べる環境があります。